
■ さろん | Mail News 2016/7/15 | #71 ■

(*Bcc でお送りしています)

これまで「さろん」にお申込・ご参加された方にご案内しています。
ご案内不要の方はお手数ですがこのメールにそのままご返信ください。

哲学カフェ及び関連イベント情報をお送りします。

みなさんの興味・関心の一助としていただくとともに、

今後とも「さろん」を応援いただければ幸いです。

なお、このメールニュース掲載のコラムは執筆者の個人的な考えを表したものです。

会や専門領域における統一見解や事象を扱っているものではありません。

予めご了承ください。

=====Vol.71 2016年7月15日(金)=====

さ | ろ | ん |
└ ─ ─ ─

M | a | i | l | N | e | w | s |
└ ─ ─ ─ ─ ─ ─ ─ ─ ─

<http://salon-public.com/>

(バックナンバーはHPからご覧いただけます)

<https://twitter.com/salontetsugaku>

<https://www.facebook.com/salontetsugaku/>

=====

【特報】

【特報】 ☆さろん6th Anniversary☆ さろん哲学(第73回)

【特報】 2016年9月17日(土) 13:30-17:30頃

【特報】 新宿文化センター第2会議室

【特報】 進行: さろん代表 堀越

【特報】 どうぞお楽しみに♪

【特報】

=====

【告知】 哲学プラクティス連絡会(8/27-28)にさろんが参加します

8/28(日)の「ブース発表」と「ワークショップ」という2つのプログラムです
詳細は次号メールニュース等でお知らせします

連絡会HP: <http://philosophicalpractice.jp/>

参加申込み: <http://goo.gl/forms/hOIwApos9F7IVq7W2>

=====

INDEX

- | 【1】 誌上哲学カフェ「ミニサロン」第5回
 - | 【2】 コラム/エッセイ
 - | ◇『対話や熟議の可能性について思う』
 - | ◇『対話の余白から #08』
 - | 【おしらせ】「サロンラボ」アイデアを募集しています
 - | 【付録】コトバをハーバリウムする
 - | 【付録】サロンアーカイブの遊歩道
 - | 編集後記
-

CONTENTS

【1】 誌上哲学カフェ

「ミニサロン」第5回

テーマ：『ふつう』でありたい？

未来の世界からやって来た、ぼくドラえもん。

今日も何だか、のび太君はどうも元気がない。ため息ついて考え込んでばかりなんだ。

いつもは真っ先にぼくに泣きついてくるのび太君だったけど、また今日も、自分の気持ちを友達に話してみることにしたらしい。最近何だかぼくに相談してくれないのでさびしくなっちゃうなあ。さて、今日はどんな会話になっているのか、ちょっとだけ覗いてみようか……。

テーマ：<『ふつう』でありたい？>

<のび太>

そりゃ「ふつう」でありたいよ。ふつうがいいに決まってるじゃないか。出木杉君ほどじゃなくても、もしふつうに勉強ができれば先生に怒られなくても済むし、目立たない。そうなればしずかちゃんだって僕のことを好きになってくれるかもしれないじゃないか。日本では、ふつうで目立たず、平穩に生活を送っていくことがとても重要なんだと思う。なぜなら、日本社会はまだまだ出る杭は打たれる一方で、集団内の規律を維持して協調性を大事にし、和を尊ぶ価値観を依然共有しているからなんだと思う。僕らしくないことを言っちゃったけど、本当のことを言うと、ふつうがいい理由はなんと言ってもジャイアンたちから苛められずに平穩に暮らして行けるだろうからなんだ(╯▽╰)

<出木杉>

どこかの国では大統領候補の人が、特定の宗教、民族を排除していこうとすることが大きく説かれているよね。自分たちの「ふつう」と照らし合わせて、「ふつう」じゃないと考えるものを排除しようとする。「ふつう」というのは、相対的なもので、社会や他者と比べるので、どうしても「ふつう」はマジョリティ側に属しがちになるな、と思うんだ。

でも、みんなが「ふつう」だったら、そこに議論や面白み、新鮮さ、新しい発見、物語は生まれていくのかな。僕は将来、宇宙飛行士になりたいって思っているから、今から沢山勉強をして、成績も一番になれるようにしているんだ。だから、「ふつう」にはなりたくないと思っている。それに「ふつう」の中の一人だったら、しずかちゃんに結婚相手として選んでもらえるかな。しずかちゃんの中の一番にはなりたくない。

<ジャイ子>

二人の意見の違いは、考えの中味というよりは立場の違いに過ぎないんじゃない？ 「もしふつうに勉強ができれば怒られなくて済む」と言うのび太君は、自分の能力を「ふつう」よりも劣ったものと見なしているからこそ、「ふつうでありたい」、つまりふつうの人達と同じレベルに上りたい、と願っているのでしょうか？ のび太君にとっては「ふつう」になる事で安心を得られるのね。出木杉君の言葉からは、今の自分の能力を「ふつう」かそれ以上だと捉えている安心感が感じられるわ。だからこそ「宇宙飛行士になりたいから沢山勉強して成績も一番に」と言うように、「ふつう」に属するみんなよりも抜き出て達成感を得たい、と思えるんじゃない？ だとしたら、二人とも「ふつう」と「ふつう以外」を考える際に、優劣の物差しをあてて、今の自分よりも上に行く（優に近づく）事で良い気持ち（安心感や達成感）や異性からの関心を得られる、と思っている点では完全に一致している、と言えるんじゃないかしら？ だから、「ふつうでありたい」のび太君も「ふつうになりたくない」出木杉君も、結局、同じ事を目指しているように見えるのよ。……れにしても2人の男子から好意を寄せられるなんて、私ったら罪な女よねー。

【2】コラム／エッセイ

▽【対話や熟議の可能性について思う】

聖理

▽【〈無担保の信頼〉が交差するところ 《対話の余白から#08》】

セリンジャー

▽【対話や熟議の可能性について思う】 聖理

欧州大学院大学教授のオリビエ・ロワ氏は述べる*1。「今起きている現象は、世代間闘争です。若者たちは、自分たちを理解しない親に反抗し、自分探しの旅に出る。そこで、親のイスラム教文化とは異なるISの世界と出会う。その一員となることによって、荒れた人生をリセットできると考える。彼らが突然、しかも短期間の内にイスラム原理主義にのめり込むのはそのためです。彼らが魅せられるのは、ISが振りまく英雄のイメージです。イスラム教社会の代表かのように戦うことで、英雄として殉教できる。そのような考えに染まった彼らは、生きることに関心を持たなくなり、死ぬことばかり考える。自爆を伴うジハード（聖戦）やテロは、このような個人的ニヒリズムに負っています」。

アートディレクター北川フラム氏は、「美術の思想的基盤は全員が違うということ」であると、今の政治状況を語る*2。「昔の自民党は、激しい権力闘争のなかで、違う意見に少しは耳を傾けたように思います。安倍政権は多様さを認めず、むしろ信念を持って異論を切り捨てている。致命的な欠点です。対する民進党も自分が正義だと思いつつ、自分

と同じ立場に立たない人はダメだ、敵だと思っている。看板は違うように見えて基本的には自民党と同じです。根っこから話せば、与党も野党も関係なく、一緒にやれることはいっぱいあるんです。立場の違う人たちと同じ土俵に乗る方が、手間ひまかかっても実りは豊かになる。私の経験からそう思います」。

社会の分断化が進む。911以降、私達の日常生活を脅かし続けるテロ。その象徴的な存在であるISは「親子世代間闘争による個人的ニヒリズムに負って」と教授は指摘する。一方で、日本の社会保障をどう立て直すか、日本の安全保障はいかにあるべきか等の難問に対して「日本の政党政治は異論を切り捨てている」とディレクターは指摘する。坂本龍一氏が指摘する「味方が敵かという、論法に乗っかっちゃう」*3 ことの弊害や安直さに気づいて「闘争するんじゃなくて、言説化して」*3いき、互いの意見の違いを対話や熟議の場での言葉によって調整（止揚）することができないか。そこに哲学対話の一つの可能性があるのではないか。先月日曜日朝の読書会ではそんなことを考えていた。

*1) 2016年6月11日朝日新聞：「過激派のイスラム化」

*2) 2016年6月11日朝日新聞：「異論切り捨てず片隅思いやって」

*3) 坂本龍一／後藤繁雄著：「skmt 坂本龍一とは誰か」

▽【〈無担保の信頼〉が交差するところ 《対話の余白から#08》】 セリンジャー

さろんの活動ももうすぐ6周年。特にことは新スタッフが加わったので、一層中身の濃いものになりそうな予感（代表もチカラを入れて企んでる様子）。ところで、ここ数年は開催がクローズしているものの志村工房長による「さろん工房」というワークショップ枠がさろんにはあって、かつての榎原・斎藤・桑田みたいに、三本柱がどっしりとローテーションを回していた時期があった。哲学カフェと読書会とワークショップが、心技体とか真善美みたいなトリニティのようにお互いに刺激を循環しあっていたような気がする。斬新な視点とユニークな構成の「さろん工房」のワークショップには、「このイベントがすごく気になって…」という意気込みで参加してくれている人が確かに居た。そしてそういう人が、工房イベントへの参加を経て「ほかの活動にも興味を持って…」と、哲学カフェ（「さろん哲学」）に参加してくれることも多かった。初めから哲学対話をしたいと望んで「さろん哲学」に参加される人のなかに、身体表現やデザイン志向のような「さろん工房」経由の人が参加していたことで、「えっ?!」と思うような予想もつかない問いかけが加わったりする機会が散見されたのは実に面白かった。もちろんいま現在の例会でも、優れた意見やハッとするような指摘は毎回あるけれど、ギョッとするような——「これはふつうの哲学対話とは異なる見方、外部からの視点による意見だなあ」と感じる発話にぶつかる回数は、工房の不定期化に伴って減ったのではないかな。

別の言い方をするとこうなる。例会には、十五人いけば十五人各様の感性があり、思考がある。だからじっくりと発話に耳を傾けていると、自然と十五の個性に触れることになる。

ただスクランブル交差点のように毎回いろんな人が交差していく二時間にあって、「さろん工房」がイベントを開催することで、工房が受け皿となっていたような志向性を持つひとたちの思考や感性が実に活性化されていたんだなと改めて痛感する。例会や読書会とは異なるワークショップというアプローチで、多様な価値観を持つ参加者たちのその価値観にさらに陰影や奥行きを与えることにポジティブな影響をもたらしていたみたいだ。もちろん哲学対話の場には——それを尋ねるようなことは決してないが——ワークショップに限らない様々な背景を持った参加者が席についていることは疑いようのない事実だ。医療や介護に携わっているひと、子育て中の主婦や主夫のひと、セカンドライフをエンジョイされているひと、転職を真剣に考えているひと、哲学カフェを自分でも運営しているひと——。それは、ひとりひとりまったく違う“背景”や“状況”や“年齢”のひと達が交差する場所でもある。そして不特定多数のひと達が交差するところだからこそ、気になることがある。

初参加の方も、リピーターの方も、参加にあたって「さろん」のどこ（なに）を信頼してくれているのだろうか——。ここは学校でも、公的機関でも、企業法人でもない。スタッフも専門教育を受けた人材でも、哲学カフェ開催の免許状を持っているわけでもない。その意味でふつうの参加者とまったく同じまな板の上で対話を紡いでいるのが実情なのだ。けれど各回のイベントが成り立っている裏には、会に対する〈無担保の信頼〉とでも呼ぶような奇跡的な何かがあるのではないか。それがなければ、決して誰もこのスクランブル交差点を渡ろうとはしないだろう。開催年数が担保になっている？——でも初年度から一般参加者は居た。顔を知っているスタッフがいて安心できるから？——では初参加のときはどうだっただろう。こんな風に考えていくと、結局のところこの〈無担保の信頼〉は、“哲学カフェ”あるいは“哲学対話”というイメージに付帯するものなのではないかという気がしてくる。じゃあ一体全体、“哲学カフェ”や“哲学対話”に対して寄せる信頼とは、どんなイメージが元になっているのだろうか。

やはりそこには開かれた対話、結論ありき的一方通行な回答の教示とは異なる、〈じぶんなりの結論を模索する自由〉というようなイメージがあるのではないか。例えば河野哲也氏は、子ども達にとって哲学対話が現代的な諸課題に対応するための道徳教育の有効なアプローチになり得るといふ趣旨の発言の中で、〈道徳とは利他的であることです。その基本的態度は「相手の立場に立つ」こと。しかし、人の考え方は千差万別で、相手に良かれと思ったことが逆の結果になってしまうことも少なくありません。そこで、相手を理解するためには「本人の声を聞く」ことが必要になります〉とし、〈その子にとってより道徳的な行動〉が何であるかを、〈子ども自身に考えさせ、その場その場で適切な行動をとるための判断力を育てるのが「考える道徳」なのです〉(*1)と語っている。ここでの発言はあくまで子どもを念頭においているが、“哲学対話”やそれを実践する“哲学カフェ”という活字の奥に、参加者はこのようなイメージを読み込んでいるのではないだろうか——。こういうイメージは、たとえばマイホームの購入を考えているひと(*2)にも、何回目かの結婚で思うところがあるひと(*3)にも、育児に奮闘しているひと(*4)や出産を考えているひと(*5)にも、失踪経験のあるひと(*6)にも、共通のものとして静かに降り積もっていて、それが〈無担保の信頼〉につながっているのじゃないかと思うのです。たぶん。

たぶん、と付けたのはほかでもなく、これがひとつの見方に過ぎないから。哲学カフェの活動を始めた最初期の頃、ある女の子が非常に印象的なことを話していました。それを自分はこういう文章として記憶しています。〈言葉を使おうとする者は誰でもそれを「正しい」と思って使うようになるということだった。(略) それぞれの言葉は、それぞれの言葉を作りだした人間の中で丁寧に吟味され、矛盾のないように選ばれる。だから、それぞれの言葉を使う者はどちらも自分の正しさを疑わない。そして、いつしかそれが「言葉が作った空間の中での正しさ」ではなく、単なる「正しさ」であるように思い込む>(*7)と。そしてそれは〈言葉の持つ本質的な政治性である〉と。だからこそ、やっぱり「相手の立場に立」ったり「本人の声を聞く」ことができるアプローチが信頼されるのでしょう。

- *1) 「河野 哲也 子どもの哲学を語る。
～自ら考え、話し合う「子ども哲学」が道徳性を養い、思考力や対話力を育むのです。」
<http://www.manabinoba.com/index.cfm/6,26044,12.html>
- *2) 中村和恵「ついの住処・家探しうたかた記」
<http://webheibon.jp/tsui-no-sumika/>
- *3) 末井昭「結婚」
<http://webheibon.jp/marriage/>
- *4) 山崎ナオコーラ「母ではなくて、親になる」
<http://web.kawade.co.jp/webmag/634/>
- *5) 犬山紙子「私、子ども欲しいかもしれない」
<http://webheibon.jp/kodomo/>
- *6) 中川学「探さないでください」
<http://webheibon.jp/sagasanaide/>
- *7) 高橋源一郎『文学なんかこわくない』(朝日文庫)

—— 【おしらせ】 ——
「さろんラボ」ではみなさんのやる気とアイデアを募集しています♪

名称：【さろんラボ】

コーディネーター：【大村】

「さろんラボ」、常設しています。
このさろんラボではみなさんの「やってみたい」を核に、
「さろん」を触媒にして、
どんな化学変化が起きるかを試みる場所です。
さろんラボは当面継続して設けていきます。

この「さろんラボ」からは、さろんの参加者の手で、
【さろんラボ 001】 「あたまの中を散歩するてつがくカフェ」

<http://sanpo-tetsugaku.jimdo.com/> が生まれ、
【さろんラボ 002】 「哲学カフェ Ante-table/アンティ-テーブル」
<http://ante-table.wix.com/ante-table> も生まれました。

既存の哲学カフェのカタチに限定せず、
みなさんの中で温まっている関心ごとやご興味を添えて、
どうぞお気軽に下記までご連絡下さい。

みなさんとの新しい化学変化を、スタッフ一同心から楽しみにしています。

▽詳細はこちらまで
salontetsugaku@gmail.com (担当：大村)

【付録】

コトバをハーバリウムする

本のコトバから #09

「だが事実を言うなら、あなたが自分に対して良好な感情を持ち、
自滅的な人生を建設的なものに変えるためには、必ずしも親を許す必要はないのである。」

——スーザン・フォワード『毒になる親』

歌のコトバから #09

「静かに笑いあえれば それだけでも昨日が見える
通りに伸び行く影は 本当のことを話しているよ

向こうの空へ 届けてほしい
僕らのこんな毎日に 風がふうーっと
ほら 街が
揺れるみたい 揺れるみたい」

——空気公団『電信』（作詞：山崎ゆかり）

カテゴリ：【さろん哲学 議事録】 第22回

テーマ：「理性と感情；”分かる”とはどういうことか？」

開催日： 2012年6月3日

http://salon-public.com/wp-content/uploads/2013/01/salon_giji_22.pdf

世の中には様々な「分かる」が溢れている。食べ物の味が分かる。時間が分かる。話の内容が分かる、等々。その一つ一つの「分かる」について私達がきちんと考える機会はそれほど多くはない。友人の話や相手の話に対して「分かる」と相槌を打つ。失恋や家族・学校・職場等での人間関係の悩みに対して、自身の経験の中から同様の経験を抽出し、「分かる」という判断を下す。しかし経験は類似することはあっても全く同じであることは無い。私と彼の失恋は（同じ恋人にほぼ同様のシチュエーションで振られた、というような特殊なケースを除けば）質的に異なる経験の筈である。そう考えると私達が普段使う「分かる」とはかなり感性的な場合が多いのではないかと。

「感性でしか分からないもの、例えば絵画などの理解を言語化することには、感性というどうしても言語化できないものを言語の土俵で語る難しさがあり、そのための一種の壁があるが、できると考える人もいる。それは、「感性での分かる」を「理性での分かる」に再構築できるということの意味する。」

ゴッホの『ひまわり』の実物を初めて目にした時、私はこの絵が何故名画と呼ばれるか感性的に「分かった」。この感覚を人に説明しようと試みた時、「私達がひまわりをひまわりと認識し得る要素のみが凝縮されており、本物のひまわり以上にグロテスクな迫力がある」という風に無理やり理性的な解釈を試みた。「分かる」を感性から理性の次元に還元できた手応えは全く無い。無論これは私個人の言語能力の問題とも言える。しかしもし私が感性で以て掴んだ「分かる」を理性で以て再構築できるとすれば、それは「分かる」を他者との共有知として扱え得ると言えるのではないかと。ふとそんな可能性について思いを巡らせた。(楠)

【さろん】 イベントカレンダー <http://salon-public.com/> ご予約受付中

▽ 【さろん哲学】 哲学カフェ #71

7/16(土) 15:00 - 17:00@品川 / テーマ「癒し」

▽ 【朝さろん】 読書会 #62

8/18(木) 6:55 - 8:15@渋谷 / 『暗室』 吉行淳之介 (講談社文芸文庫)

- ▽【さろん哲学】哲学カフェ #72
8/20(土) 15:00 - 17:00@渋谷 / テーマ「(未定)」
- ▽【さろん哲学】哲学カフェ #73 《さろん6周年 Anniv.》
9/17(土) 13:30 - 17:30@新宿 / テーマ「(未定)」
- ▽【朝さろん】読書会 #63 《6th Anniv.特別プログラム》
9/18(日) 9:00 - 12:00@渋谷 / 『死の棘』島尾敏雄(新潮文庫)
- ▽【夜さろん】#19 《6th Anniv.特別プログラム》
9月 or 10月 金曜 19:00 - 22:00@渋谷「ビブリオバトル・アラモード(夜さろん風)」
-

編集後記

メールニュース第71号をお届けします。

はやい方はそろそろ夏休みをとりはじめる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。
7月も半ば。全力で夏が雄たけびをあげる頃ですね。(きょうの昼頃は大雨でしたが)

9月のさろん6周年企画が本格化してきました。
テーマや内容はもちろん、今回はイベントのやり方からもあらためて哲学対話について考えてみる、
そういう面白い時間になること請け合いです。
時間もふだんより拡大し、じっくりとていねいに話し合ってみたいと思います。
どうぞお楽しみに♪

9月の話ばかりしていると「ちょっと8月はどうなのよ?」とつつこまれてしまいそうですが、
8月はいよいよリオ・オリンピックが開幕です。
落選はしたもののもしかするとこの2016年に東京五輪が開催している可能性もあったわけで、
2020年に向けて急ピッチで進む都心の再開発が4年前倒しでこの夏に現実化していたんですよ。

いまから4年後の東京の、日本の、わたし達の変化はどういう形をとって目の前に現れてくるのでしょうか。

4年後の2020年、さろんは10周年を迎えます。
東京五輪のその裏で行う文化の祭典、10周年記念の「さろんピック」。
新スタッフも迎えました。いろんな方々とも出会いました。
さろん3周年文化祭を、質的にも興奮度的にも越えているような催しにするべく、
この夏は気持ちのいい汗を流したいなと思ってます。
できれば涼しいところで。
だって羽毛に覆われてて暑いですものフクロウは。ほう。

* 「さろん3周年文化祭」

http://salon-public.com/wp-content/uploads/2013/06/3rd-Anniv-Fes_Mail_News_20130820.pdf

それではまた次号でお会いしましょう。ほう。

編集: (フクロウ)

さろん | Mail News 2016/7/15

⇒次号 (8月1日発行予定)

さろん Mail News 第71号 / 2016年7月15日発行

編集・発行: さろん

salontetsugaku@gmail.com

<http://salon-public.com/>

<https://twitter.com/salontetsugaku/>

<https://www.facebook.com/salontetsugaku/>

-
- ◇ 「さろん」にお知らせいただいたお名前・メールアドレスなどの個人情報は、当会からのご案内のためだけに使用いたします。
また、ご本人の同意なく第三者への提供はいたしません。
 - ◇ 「Mail News」の無断転載はご遠慮ください。転載ご希望の場合はご連絡願います。
バックナンバーはHPからご覧いただけます。
 - ◇ 【Twitter】 <https://twitter.com/salontetsugaku>
 - ◇ 【Facebook】 <https://www.facebook.com/salontetsugaku/>
 - ◇ 【ホームページ】 <http://salon-public.com/>
 - 「さろん哲学」 Web サイト <http://salon-public.com/tetsugaku/>
 - 「朝さろん」 Web サイト <http://salon-public.com/asa/>
 - 「さろん工房」 Web サイト <http://salon-public.com/koubou/>



"copyright (c) 2011-2016 さろん. All rights reserved."
